

令和6年度 檜原村村民対話集会

日 時：令和7年2月6日 19時30分～21時00分

場 所：小沢コミュニティーセンター

村側出席者：村長、副村長、教育長、総務課長、ほか職員3名

参 加 者：14名

### 《意見交換》

■ 村長がずっと文章をお読みになったことを、メモしようと思ってもなかなか追いつかないですね。原稿というかお読みになってる文章があれば先に皆さんにお配りしていただければ、なるほどなと理解ができると思うんですよ。例えば北海道のニセコなどでは職員のメモまでも事前に全部公開するよというように、今は情報公開の時代ではなくて、行政から情報提供するという時代にもう移行してると思うんですね。そういう意味では今村長が言葉で喋った内容は私たちもメモしなきゃいけないんでしょうけども、今見てますと原稿を読んでもうような感じがしたので、可能であればその原稿そのものを配っていただければありがたいです。一つ検討していただきたい。

→【村長】

ありがとうございます。このものについては原稿ですので、コピーをとって、それでは次回からは配布させていただきます。

■ 小沢コミセンが避難所になっているんですけれども、ご覧のとおりフローリングで、避難した時に寝られないという声が圧倒的に多いんですよ。それで避難した場合に寝られるような状態に最低してほしいなと思っています。現状ダンボールベッドですか、それはやっているという話ですけれども、3週間ほど前にテレビでどこかの知事がダンボールベッドをどの位準備してるかと言ったら、4,000人に1台というような話でした。ですから、檜原で今どれくらい準備されているのか、それをちょっとお聞きしたいなと思うんですけど。

→【総務課長】

はい。それでは私総務課で担当していますので、私の方からお答えをさせていただきたいと思います。今ですね、ダンボールベッドをやすらぎの里の方に備蓄をしております。全部で200程度、200台っていうんですかね、準備しております。ただ、檜原の住民数を考えるとまあそれでも少ないのかなと思いますので、その辺も随時準備の方は進めていければと考えておりますので、よろしくお願いします。

■関連しまして、ダンボールベッドがあっても台風になった時にはすぐ持って来ることができませんよね。ですから事前にある程度配布してもらわないと、対応はできないんだと思うんですよ。あと、ダンボールベッドの場合はちょっと作るのに時間がかかるかなと思うんですよ。そうすると高齢者が作ったりして、それで終わってしまうというふうな感じがするんですよね。ですから、他のものでも対応できるものがあれば考えてもらった方がいいのかなと思うんですよ。ダンボールベッドこの前のテレビで見たら結構高いんですよ。高さが。（総務課長：今村で用意しているのはこのぐらいです（膝下位を指して）はい、じゃ大丈夫ですね。実際にあの見てないんですけど、すみません。

→【総務課長】

確かに、仰っているように、大雨が降っている中で運ぶというのはなかなか大変ですので、そういった台風情報とか情報をこまめにこちらでも取得しながら事前になるべく早く対応したいと思いますので、よろしくお願いします。

→【村長】

今ご指摘のとおり、災害が起きてからダンボールベッドを運ぶわけにはいかないということで、それについてはですね、今後整備、いろんな、防災計画だとか、そういうのを今見直しをして改正をしていますので、それに合わせるような形で、人数分、何人にいくつ準備したらいいとか、そういうことはまだ全然わかりませんが、いろんな備蓄については、人口に合わせて3日分とかそういう基準に合わせて全部整備させていただいているんですけども。ダンボールベッドとか、毛布とか、避難するには必要なものがあると思いますので、もう1回見直しさせていただきます。

■やすらぎの里はもうだいぶあちこち古くなっていて、改修工事の予定があるとお聞きしたのですが、大体ざっくりした予定みたいなのを聞かせていただいてもよろしいですか。

→【村長】

実はですね、私の政策の中で、やすらぎの里のリニューアルをしたいということでのせてあります。そして今担当の方でその指示に基づいて、どうやったらいいかというのをいろんな形で検討していただいております。介護保険が始まった時のものだとか、使っていない部屋とか、いろんな形で経年劣化で本当にひどいようなところもあります。そして、二次避難所にもなっていますので、エレベーターとか、電源が止まった時に、じゃあどうするんだということで、非常電源とか、そういうのも動かせるような形で、どのくらいの非常電源が必要とか、そういうのを今担当の方で検討している段階で、私の方ではちょっと早くしてというような形ではやっているんですけども、なかなか今のところちょっとまとまってないので、今後1年ぐらいで計画をまとめて、それから整備をしていきたいと考えています。

→【総務課長】

今村長が申し上げましたとおり、今年、今、改修計画を進めておりまして、来年設計ぐらいですかね、来年度設計ぐらいですか。ちょっと時間がかかりますね。少しまだ何年か先の話になろうかと思います。

■関連するのですが、大規模な多分改修になるのかなと思うのですが、やすらぎの里では温泉を利用している人もいます。私は、檜原ギターサークルっていうのを主催しておりまして、そこでよくギター練習や発表会しているのですが、あそこの利用者が、その改修をしている時に、どういう対応を考えていますか。その辺のことをちょっとお知らせいただきたいと思います。それともうひとつ、やすらぎの里もそうですけども、福祉センターですね、あそこがかなりもう古い。それとあとバリアフリーになっていないんですよね。2階とかに上がるものになっていませんね。やすらぎの里もそうですけども、福祉センターについてはどういう計画があるのか、お知らせいただきたいと思います。

→【副村長】

やすらぎの里の改修についてなんですけれども、その設計を進めていく中で、自家用の発電機も必要だということで、それと合わせて今やっています。やり方としては使いながら改修できるのか。例えば温泉は止めてとか、いろんなところ止めながらやるのかっていうのも含めての今設計というか、相談をしています。そういうところでまだどういうふうになるかっていう、なるべく利用を止めずにやる方向で、改修ができないかなというところを考えてます。ただ、まだやり方によってできないかもしれないですけど、そういう方向で検討をしたいっていうことです。あと福祉センターもですね。古いのは承知してまして、検討していかなければならない部分なんですけれども、今回のやすらぎの里の改修のところで、現在使ってる福祉センターの機能をこちらに持ってこれないのかっていうのも含めて検討しながら、無理であれば、改修なのか、建て替えなのかということも一つの選択肢として検討しているところであります。最初にやすらぎの里を造った時に、将来的にはこちらのやすらぎの里に一本化して使っていただくということがそもそものスタートだったようなこともありますので、ただまあ今の利用形態を考えていくとそれも難しいのかなとなれば、先ほど言ったようにやすらぎの里でできなければ改修なのか、古くなってるのは承知していますので、そういうところでまた検討していきたいというところでございます。

■今の件については、いろんな村民の人が利用しているんですよね、現実的に。福祉センターもやすらぎの里も。こういうふうな計画にしたいっていうのは村民の意見を聞くという、パブリックコメントをやるという予定はあるのかなのかですね。あるといろんな意見がきて、確かに大変なんでしょうけども、村の公共財産ですから、それについてはどう考えているのか聞かせてください。

→【副村長】

今の状況ですけれども、今は各施設を利用している代表者、あと住民代表の方を入れて、やすらぎの里の今の利用状況ですとか、こういうところが使いにくいとか壊れてるとかそういうところを検討する会議を持っています。また、利用者についてもアンケートみたいな形でとった経緯もあります。それを含めて、今その改修計画というのを1回作ってる場所でもあります。それを受けてまた会議がありますので、ここで出た意見でそういうパブリックコメントとかした方がいいとかっていう話であれば、そこでまたお話をしていく形になるのかと思ってます。

→【村長】

上元郷のところにある福祉センター、これについては建設されたのは確か昭和46年ですので、もう相当の年数が経っていると、それで耐震については耐震補強をしていますので、耐震は安全なんですけれども、ただ障害者に優しいエレベーターもないということで、そういう点では、住民の方に不便をかけているということで、意見としたり建て替えをした方がいいよとかそういう意見も聞いておりますので、ただ今言ったように、やすらぎの里も福祉センター的なところも加味していますので、全体の改修をした後でないと、上元郷の福祉センターについては建て替えがいいのか、そういうふうなものもまだ何も決まっていませんので、そんな形でそれが終わった後に。また、福祉センターの改修やの建て替えとかそういう検討委員会の予算は取ってるということです。時期が来ればそんな形で検討した後に、建て替えができると思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

■配食ボランティアやってるんですけど、週2回。私は臨時で行ってるだけなんでまだ何回もやってないんですけど。健康とかそういうのを考えると、1日1食何かバランスのいいものをしっかり食べてれば、健康の維持にもつながるんじゃないかなって思ってた、今だと火曜日と木曜日しかないんで、それを土日も含めて提供できればいいかなって思うんですけど。

→【村長】

配食サービスは今のところ、週2回で、社協で今やっていただいております。そして、そこでもうちょっと配食したいとかですね。福祉とも相談しながら、もうちょっとそういう需要があるんであれば村としても考えなきゃいけないなと思っております。ボランティアがなかなかいないってことで言ってますので。

■局長とちょっとこの間話したんですけど、ものを作ることはできると。給食センター使っても。怒られちゃうけど。ホームを使っても、物はできるんだと。ただ配り手がいないと。そこをどうするかだけだと思うんですよね。曜日関係なく頼めるってなれば、それを利用したい人って結構いるんじゃないかなと思うんで、もし考えていただければ。

→【村長】

社協はですね、ボランティアのグループを以前は作ってたんですけども、それがもう登録者がないということで、なくなってしまったんですけども。檜原村はやっぱり年をとってもいろんな形であのうちの野菜を作ったり、色々してるんで、ボランティアっていうのがなかなか育たないっていうかそんな地域になってしまっているんで。社協の方でボランティアをいろんな形でやっていただける人が多くなれば、作るのは桧原苑にお願いしてますので、作ることができると思うんですけど、ボランティアがとにかく見つからないということで言われてますので、今後検討していったって増やすような方向で検討させていただきます。

■やすらぎの里の厨房が全然何も使われてないっていうのもなんかもったいないなって私は思っちゃうんですけど。

→【副村長】

この部分含めて改修を計画しています。

■先ほど、湯久保の方ですね、交通についてはちょっと事前にお話を聞いていただいたので、ちょっと交通以外で3点お伺いをしたいんですけども。

まず1点目は、湯久保の水道のことをちょっとお伺いをしたいと思います。これ、多分一般質問でやられたと思うんですけど、簡易給水施設の維持っていうところで、村側からはその利用者負担があるようだったら、料金を設定して、村の方で維持をしても構わないんじゃないかっていう答弁がね、議会でされたと思うんですけども。今、村としては湯久保の簡易給水施設、湯久保の水道ですよね、これの湯久保からの要望をどのように承っていて、今後どういうふうに対策しようと思っているのか、今のお考えがあればちょっとお聞かせください。

で、2点目はですね、観光のことなんですけれども、小沢はこの目の前のおもちゃ美術館と、あとはその裏の方にひのはらファクトリーがあります。で、今神戸の方ではマス釣り場を整備してるっていうところで、神戸の方が進んでるんじゃないかと思うんですが、今現在その美術館とあと特にファクトリーの方ですね、村としてどのくらい注力していて、どれくらい観光に施策展開をしているのか、今の現状をちょっとお伺いできたらなと思います。というのも、まあ以前私もね、この辺りはすごく関心を持って取り組んでいたんですけども、出来上がって数年経って、今現状その村としてどういう関わりがファクトリーと美術館とあ

って強く進めているのか、その辺の考えをお聞かせいただければと思います。

で、3点目はちょっと商店の維持について、村の考えを聞きたいんですけども。東側はね、かあべえ屋がもちろんあって、南の方に行くと人里の辺りにも西川屋さんとか、数馬の方にも松坂屋さんとか商店がいくつかあります。まあ、お酒が買えたり物が買えたりするところですね。で、北側が、角屋さんが閉店して以降、閉店というかね、なかなかそう物が買えたりするところやっぱないんです。で、やっぱりそういうところを住民の生活のためにも必要じゃないかなと思うんですが、こういった商店の維持とかに関して、村はもうちょっとこう支援をしてくれたらいいんじゃないかなと思うんです。これは振興券を発行して、村の人に使ってもらおうというのも一つのそういうふうな作用があると思うんですけども、商店自体を維持したりとか、新しく商店をオープンする方がね、どれだけいるかわかんないんですけども、その辺のちょっと考え方っていうんですかね。まあ、北側に今そういう商店がないっていうところで、どう村が今考えてるのか、その辺りをちょっとお聞かせいただければと思います。

→【村長】

はい、それでは知ってる限りのことで、ちょっと回答させていただきます。湯久保につきましては、水源を含めていろんな形でですね、どういう形態で水道をこれから整備していったらいいかということを、今検討しております。水道もですね、水源がすごい少ないということで、いろんな形で人が増えてしまったっていう言い方、失礼ですけども、増えてる現状からですね、以前はですね、別荘的な形で人が増えたということで。それを給水すると共倒れになってしまうよってというような形で昔は懸念しておりました。そして、今はですね、もう住んでいただいているんで、水が少ないのであれば、簡易水道、下からの簡易水道をポンプアップして使うか、もしくは新しい水系を求めて水を確保するかっていうのをそんな検討をさせていただいております。そして、質問の中では村が管理してほしいと、そんな質問もいただいておりますので、これについては、じゃあ村が管理する場合は料金を頂きますという形でやらしていただく予定です。その代わりにですね、地元の考えが一本にしてくれるということで。要は、水道料金を取らないような形をしてくれないかっていうかですね、そんなことも聞いておりますので、考えがまだ二分してるような形なんで、それについては一本化していただきたいと思います。

そして、美術館とそれからファクトリーの関係ですね。これについては村では整備をして、そして指定管理でですね、管理をしていただいておりますので、これについては特に問題なく推移しておりますので、そして美術館等については年間4万人っていうことで、目標を達成しておりますので、これについては順調に経営をしていただいております。

そして商店の関係なんですけども、本当に商店については各地域に昔はいろんな形でありましたけども、これについて本当に商店がなくなってしまったということで、本当に近くでいろんなものを欲しくてもですね、買えないのが現実でございます。そのために、めるかで

すね、それを作って今やってるんですけど、経営自体はなかなか大変なようでございます。そして、各地域にある商店の支援ですね。支援についてもですね、なかなか継承する人がいないってことで、いろんな形で、協力隊を入れたり、いろんな形で支援をしたらどうかとか、いろんな話を聞いていますけども、なかなかそこまで至っていないということで。今どんどん商店がなくなっていくような状況を、本当はよくないんですけども、なかなか支援の話があれば、村でも考えていきたいと考えております。

ファクトリーの関係も指定管理でやっておりまして、ファクトリー自体も今のところは令和6年からですね、補助金についてはもう打ち切りをさせていただいて、独自に経営をしていただいているということで。先日もですね、村の監査員に監査していただいて、ある程度順調に指定管理として機能しているというような形で、講評はいただいております。以上です。

■はい、ありがとうございます。1点、水道については、ポンプアップっていうお話がね、湯久保の自治会からも、そういったポンプアップをしてほしいっていう要望が出てたのかなと思うんですけど、このポンプアップが、はたしてまず可能なのかどうかっていうのを1点確認をしたいのと、あとファクトリーについては木の酒で、これは結局今動いてるんですか。その木の酒が、村長が代わるところだったので、今現状をどんなふうな感じになっているのか。これ結構ね、村の肝いり事業だったんじゃないかなって思うんですよ。まあ、指定管理指定管理と言いつつ、やっぱり村がある程度予算も投入してやってる限りは、村がその指定管理者に全部お任せではなくて、どういう状況になっているのか、あるいは村としてどういうふうにそれを観光に使っていくのかっていうのをちょっとその辺の把握を知ってる状況っていうんですかね、お伺いしたいです。

→【副村長】

それで私の方から、一点目の要望のポンプアップの件なんですけども。ポンプアップ先、村長からありましたポンプアップ、あと元の水源の確保、あとローリーで運んでローリーで下に落としていくっていうような三つの方法で検討してます。で、おそらく一番の希望はポンプアップなんだと思うんですけども、それが物理的に可能なのかどうかと費用的にどうなのかっていうのを今出さしてるところになります。その中で、実現可能性などところをお示しして、これからどうしてこうかっていうところになるのかなと思います。まあ、できれば一番いいのは元を改修すること、あるいは新たな水源地が確保できれば、それが一番いいのかなと。で、それについては簡易給水施設ってなりますので、村の方で改修はさせていただくつもりではいるところであります。

あと二点目のファクトリーの木の酒についてはですね、ファクトリーの裏の方に作る場所ができております。そして、木の酒ブレンドっていう形、じゃがいも焼酎とのブレンドという形でありますけれども、販売にはこぎつけているところで、おそらく本格的にぼちぼち動き出すのと、この販路については海外の方にもですね、売ってきたいというようなことで

指定管理者の方からは聞いております。

■災害の避難所のことなんですけれども、障害の方とか、あと人工透析をされている方とか、災害時いろんな方、本当に大変な思いををすると思うんですけれども、特にそういう災害弱者と言われるような方々の福祉避難所ですか、そういうものの設置っていうのが、障害を持ってる方々には望まれるかと思うんですけれども、なんか村の方でそういうような考えとかあれば伺いたいのと、あともしそういうものを作るとか、設置するっていうような話の中に、ぜひ当事者の方の意見なり、そういうのをちょっと聞いていただきたいっていうのが、あと結構その障害っていうのは本当に人それぞれなので、皆さん望んでいることが違うと思うんですね。で、まあ、設置されてたとしても、そこまでどうやっていくのかっていうところまで、ちょっと考えなきゃいけないところもあると思うので、もしそういうことがありましたら、ぜひ当事者の方の話を聞いていただきたいなと思ってます。以上です。

→【副村長】

すみません、福祉避難所というのは特にですね、新たに作るってこと今んとこないんですね。それでやすらぎの里の方を福祉避難所として使うということで、でそこにはまだちょっと電源が足りないんで、電源整備をきちんとして、そこを使っただくということと、あと一時的にもし受け入れていただける時には、サナホームさんですとか桧原苑さんの方、そういうところとも協定を結んでますので、そういう形で入れてもらうようなこともちょっと、協定を結んでます、はい。

人工透析のことはちょっとなかなか難しい部分がありますので、場合によれば、大雪の時もありましたけども、ヘリだとかそういうので搬送してもらうとか、そういうことになる可能性もあるかもしれないですけども、なるべくだったらそういう災害、雪だとかあるいは台風とか分かる災害であれば、事前に外に行っていただくっていうのも一つの手かなというところは、無責任で申し訳ないんですけども、そういうことも考えていただければと思ってます。

■あとコミセンですね。避難所になってるんで、手すりが欲しいですよ、トイレに行く。この前の合同の防災訓練の時に避難所として使うのであれば、手すりがなければ話にならないという話が出ましたので。まあ倒れてしまうと骨折してしまうとね、救急車呼ばなきゃいけないし、そんなの考えたらやはり先にね、準備してもらった方がいいのかなと思うんですね。

あとですね、今トイレがね、消防署の小屋のところにありますけども、分かりにくいですね。トイレの場所が分かりづらいんで、表示をちゃんとしていただければと思うんですけど。あと、掲示板がもう古くなってるんで、一応観光で売ってますので、あそこのバスの停留所にあってすぐ見えるんですよ。ですから、できれば掲示板も替えてもらいたい。で、画鋏



が通らないですよ。ですから、できればなるべく早く替えて欲しいということです。お願いします。

→【村長】

まあ、手すりの関係ですね。このコミセンもある程度年数が経ってるんで、そういうふうな考慮して作られていないと思うんですね。で、ここにはコミセンの管理者っていうのはいるんですか。そしたらですね、要望書っていうか、申し訳ないけど、そこだけ、それだけでもいいんですけども、他にももししくは何かあるようでしたら、付けるような形でですね、要望書に基づいて、やらしていただきたいと思います。まあ、要望いただいたからじゃないんですけどもね、そういうふうな形で、コミセンの修理だとか、そういうのが必要な時には管理者が中心になって、提出していただければ、検討させていただきますので、お願いします。あとね、今ちょっと副長の方が言われたんですけど、コミセンの檜原の中には8地区に必ずあるんで、手すり等もですね、そういうところを私は見た限りは、手すりがついてるところはどこもないので、この辺がどうしても欲しいとなれば、それを対応しなきゃいけないんですけども、ここへ付けたらみんな付けなきゃいけないんで、その辺も含めて検討させていただきますと思います。

で、あと、掲示板だとかそういうのをですね、掲示板は何年かに1回ちゃんと要望かなんかちょっと自治会宛てに出してると思うんですけども。結局、地面についているところが腐ってしまっ、上はいいんですけど、ってことでそんなのの対応してると思いますので、自治会を通じて要望を出していただければと思います。

それからトイレの表示ですけど、表示については、確かに表示っていうのはないんで。まあ、付けた方がいいのかな。

■トイレがすごい狭いんで、村長1回あそこに座ってみてください。

→【村長】

いやいや、私も行って、大便の方は入ったことはないんですけど、小の方はやらせてもらってます。

■洋式には直してもらったんですけど、目立たないんですよ。で、あと使っていいのかどうかも多分分からない。

→【村長】

実はですねえ、ここで村内全体の、トイレの、どういう状況になっているとかですね、この辺にトイレを作ったらいいとか、そういうふうな調査をしております。そして、そこに問題

があるようなところについては、トイレの修理も含めて対応させていただきます。表示が分からないってことであれば、小沢の地区の公衆トイレですよというような形の表示をするのがいいのかなと思ってますので、その辺も含めて検討させていただきます。

■すみません、コミセンの中のことでちょっと付け加えさせていただきたいんですけど。あの、広いですよ、ここ。今多分皆さん寒いと思うんです。で、3機あれが入ってるんですけども、温まらないですよ。私たちも毎週1回ここを使わせてもらってるんですが、寒くて寒くて、運動してても寒いっていう感じなんです。空気が上に上がるじゃないですか、暖かいのが。それをこう回す扇風機っていうか、プロペラみたいのあるじゃないですか。せめて、それをつけてもらえないかなっていうの、いつも女性陣では話してるんです。あの、そばに行くと、暖かい空気がいっぱい出てるんです。

■担当課に相談したんです。前こうストーブが2台あって、それがこっちが壊れ、今回あっちも壊れちゃったんです。で、壊れたらもう役場では買わないんで、自治会で買ってくださいっていう話だったんですよ。で、まあ了解したんですが、今日来てみて、3台フルに稼働してて、このもう何時間ももうこの寒さ、ちょっと玄関が開いちゃってたっていうのが今日あるんですけど、ちょっと厳しいのかなっていうのが。前もって、本当に一時間も会議なんかある場合には、つけに来ないと。

→【村長】

あのね、やはり能力が少ないということで、そしてアンペアを上げないと、なかなかもう使えないっていうな形でね、いろんなところも出てはおりますので、まあ今後改修する時にはそんなのも含めて、アンペア上げたり、いろんな形で、もうちょっと快適に会議ができるような形で検討させていただきます。

■じゃあ、今の後ろの方からちょっとね。いろんな村民の要望っていうのはいろいろありますよ、回ればね。そして私思うんですけど、檜原は財政調整基金とか整備基金等を含めると相当な金額が貯まってるわけですね。それで国の財務省の方は地方公共団体で、あまり基金貯めこんでるところは、交付税のね、地方交付税の措置も考えなきゃいかんじゃないかという議論もずっとしてるんですよ。で、そういう中において、檜原の今の基金の活用っていうのはですね、もっともっとやるべきじゃないかな。例えば、先ほど出た手すりの問題とか、風評の問題、こういうのもね、どんどん使えばいいと思うんですよ。それで、檜原の財政の方のを見るとね、いつも年度末になると繰越金がドーンときて、予算ではだからちょっと多めに見てるんですよ。で、決算になると余る、いつもそんなような繰返しでですね、結局繰り越し金は何億も増えるような形になってるわけですね。で、そういう構造そのものを見直して基金の活用ももっとやるべきじゃないかなと私は思うんですけど。この辺は、まあ議

会との兼ね合いもあるしね、何にどう使うかというのも公平性というのもあると思うんですけど。村長はどう考えてんのかってことですね。多分増えてると思うんですよ、前よりも。それはやっぱりもっと村民に還元すべきじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

→【村長】

はい、実はですね、基金については、全ての基金を合わせると、もう60億になってます。これについてはですね、基金は東京都ではですね、檜原村いくらで積んだら気が済むんだっというくらい、まあ積み増ししてます。そして、今私がちょっと言ってるのは、もう交付税が減額されますよって、国の方で目をつけてるということは、以前から承知しております。そしてですね、この金をどうして減らすのは、今みたいなことで使えばいいのかもしれないけど、有効に使わなければいけないということで。私は今、担当の方に言ってるのは、この基金をですね、実は人口がすごく減ってるので、先行投資で土地を買って、そして住宅を作って、人口を増やしていくと、そういう形でまず使ってみようということで。そして、当初予算で村は健全な財政運営をしているので、本当にですね、きちんと予算を計上してるんですね。で、最終的に決算で、残金とそれから東京都の総合交付金が増額されたということで、3月になると、もうそれを組み替えをして使うわけにいかないという状況になってしまって、最終的には基金に積み増しするような形になってしまって、それがどんどん増えてるっていうのが現状だと思います。ですから、まあ、これについてはその年に来たものはその年に使い切るというのが一般的だと思いますので、できたらですね、これからは有効に使っていきたいと考えてます。

→【司会】よろしいでしょうか。

■今の点はね、まあ、有効に使ってほしいなと、村民要望に即してね。

さっき指摘した商店とかね、というような件なんですけども、含めて空き家対策も。例えば空き家になってから云々っていうことも、もちろん対策的には重要ですし、先ほどの個別の名前出しちゃっていいのかな、あそこがいろんな事情で閉店になっちゃいましたけど。そういう前にね、閉店する前とか、空き家になる前に村から積極的にね、こういう手助けができるんですよというメッセージを送るっていうこと、すごく大切だと思うんですよ。空き家になるところ、あるいは商店を閉じるところ、まあそれぞれの事情があるんで、またなかなか人様にも言いにくいところもあると思うんですけども。それはね、役場であれば、窓口がきちんとして、先手先手でね、対応するというような対策も必要だと思うんですけど、そのような取り組みはどうなんだろうかな。

→【村長】

はい、実はですね、今言ったような形についてはですね、空き家対策ということで、西庁舎で相談を受けております。そして、空き家になってからで、確かに対応が遅くなるんで、空き家になる前に、その家の人がですね、生涯どういうふうにしていったらいいかっていう、そういうことを聞いて、遺言ではないんですけども、これを有効に活用してくださいっていう、そんな形で相談を受ければ、それに沿った形で、ものをですね、活用していくと、それも含めて相談に乗るような形で今対応しておりますので、ご利用いただきたいと思います。あと商店はなかなか難しくてですね、商店についても、いろんな形で相談を受けますよということで、担当の方ですね、西庁舎の方でそれも含めて、やっております。ですから、でも今そういったというししても、檜原の商店っていうのは本当にもう数えるほどになってしまっていて、なかなか問題で、配達をしたりですね。コープが取ってる家がすごく増えてたりですね。いろんな形では、やっていただいているんですけども、村でもかあべえ屋が、そんな形のものをしたいということで、相談しておりますので、それに即したような形で各家庭まで配達するような事業も今後はやっていきたいと思います。できたらね、各地域に商店が一つぐらいなければ、本当にですね、生活するのは大変で、車に乗れない人も結構出てくると思いますので、そういうふうにしたいんですけど、なかなかやっぱし、マンパワーが足りなくて、対応ができないのが今現状ですので、誰かやりたい人がいれば、個人手を挙げていただければ支援をしていきたいと思います。個人事業主につきましても、そういう制度がありますので、そんな形で対応させていただきますので、よろしくお願いします。

■だって、かあべえ屋だって 300 万の赤字出しているんだから。

→【村長】

今日もですね、会議あってやったんですけど、だんだんやっぱし少なくなってきておりますので、あと 1 年ぐらい待っていただければ。

で、お酒も売るようになりましたので、それで許可も取れましたので、少しは売上が多くなるかなと思ってますけど、手の方が全然足りてないんで。まあ、買う人もまだ今のところ多くなってませんけども、対応させていただきますので、よろしくお願いします。

■お祭りの継続についてなんですけど。 お祭りですね、結局やる人がどんどん減ってるといって、今やっている人たちがもう年齢的に限界の人たちがやっていると、どこでも。ですから、そういう形の中に今やってる人たちを地区の方から推薦してもらって、2 名ずつぐらいね、各自治会の方から推薦してもらって、村の方で表彰してもらおうっていうようなことは考えられないのかと思いますよね。自治会長なんかも、5 年やれば表彰されますよね。まあ、そういう形の中で、お祭りもね継続してかないと、私は終わってしまうと思うんですよ。そういう形の中で少しでも継続して例えば一つの方法として、表彰制度もあつ

ていいのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

→【村長】

祭りの存続についてはですね、各自治会で本当に苦勞してると思うんですね。

小沢以前は長男じゃなければ式三番できないとか、いろんなことがあって、それも緩和していろんな人が参加していただいているということで、どうにか都会に出た人たちを呼び寄せたりですね、協力隊の人たちが入ったりしてやってるところが、それでやっていただいて、なおかつやっぱし伝統があるものなんで、受け入れない地区もあるんですね。他の人は祭にはこの地域の人以外は入れないとかですね、そういうこともあります。ですから、まず祭りに関しては本当に地域の人たちで話し合っていていただいて、募集していただいたりなんか、していくのが私はいいかんと思ってます。そして表彰ということですけども、村が表彰するのではなくて、地域の祭りのいろんな責任者の人が表彰するっていうような形でやっていただいた方がいいかなんと思ってんですけども。

あのね、村には檜原村表彰規定というのがありまして、その中では団体表彰については、表彰はできるんですけど。

■もうそろそろ変えてかないともたないですよ、実際には。だから、それを変えればできるわけですよ、表彰基準を変えれば。もう、そういうふうにはやってかないと続かないですよ、若いものは。一つのモチベーション、だと思うんですよ。

→【村長】

まあ、表彰で済むのであればね、表彰して、表彰一つであれだけ、なかなかやっぱし、それでは集まらないと思うんだよね、長続きもしないし。いろんな形で、各地域で策を練っていただいて、この地域もですね、東京都で初めて祭りの式三番の指定を受けていますので、伝統あるものですので、ぜひみんなで話し合っていていただいて、継続していただきたいと思います。

■個人的な問題になるのかもしれないんですけど、私が今一番欲しいのは太陽、日照時間です。本当に、ここに檜原村っていうか、ここに住んで50年、55年、まあ、57年、あの50年以上経って、本当に良いところだなと思って、どこにも行きたくないなと。もう一生ここで過ごすつもりではいるんですけども、なんせ太陽が見える時間が少なくて、特にこの冬場ですね。で、あの、なんかもっとお日様があと一時間でも、せめて一時間でも欲しいなっていう気がするんですね。で、あの昔日照権の問題とかなんかで、一番最初にこのこの上のところを切ったんですよ。

その時にうちのなんか中心になって、あちこちをお願いして回って、湯久保の方にはすごい日が当たるんだよね？当たらない？ここ上を切ったので一生懸命やったこちら辺の人たち

には、なんか恩恵がないっていうか、下に潜っちゃって、あの、だから今上の方からずっと切ってきてるので、切ったので、その下をもっとねこう切ってもらえれば、あの1列がなければ、もうちょっと当たるなとかと思いながら、今見てるんですけども。あの、まあ、どこの地区でもね、そういうところあって、山王の辺りのことを考えればね、もう一日当たらないところの人たちから言ったら、もう本当に贅沢なこと言うんですけども。でもあれを切ればもうちょっとなあ、あの一本二本がなければな、みたいな感じのところもあるのですね、そういうところが何とかならないかなっていうのをすごく今一番思ってることで。

→【村長】

どのぐらいの時間が当たってますか。一番短い時期で。

■一番短い時間で8時過ぎには上がってきて、で12時ちょっとですね。12時前かな。

→【村長】

今の基準ですと、日照確保の関係が大体3時間っていうのが。私のちょっと認識不足で、日照時間っていうのは撤廃されたそうです。

私のちょっと認識不足で、自治会の負担が5%ある。そして、地域の人たちが、その恩恵を受ける人たちが5%負担して、なおかつ所有者に交渉して、承諾を得るといような形を取っていただければ、村ではそういう要綱に合わせて、補助することができますので、よろしくお願いします。

あの、それを今防災の笹野の会議で、網を張ったりいろいろしてるんで、その辺、もし上を切る場合には、制約があるかもしれないんで、保安林とかそういうのでいじくれない地区になってれば、手をつけられないかもしれませんが、それはよく調べないと。

■俺がやったらもう切れないっていうふうに東京都とか言われてるんだけど、それってそうなんですか？それを解除することってできる？結構これガラ山なんです。ガラ山で、だから木を切らない方が落石が来なくていいよっていう話だったんですけど、こうやって網をちゃんとしたら落石しても平気でしょって、切っても平気でしょっていう。

→【村長】

だけど、網を張ったのはまだ1年前か2年ぐらいなんだよ。それでちょっと解除してくれっていうのはなかなか難しいと思うんで。

■そういうこともあるってことを分かって。

あの、よく外国の方でね、山のとっぺんを切り切り開いてから、大きな鏡を作って当たってないところに日を当てたっていうね、ニュースになったことがあるんですけども、もうそう

いうふうにしてもらいたいねというぐらいに。

→【村長】

実は、私産業にいた時に東京都の方にね、やはり今言ったような形で、対岸に大きな鏡をつけて、日が当たらないところに、こう当てれば、そういうふうなことが確保できるということで提案したことがあるんですけども、提案だけであって、現実、実現はしませんでした。

■そういうことが、現実としてあったわけですから、外国なんかでもね。すいません、ただちょっとそんなふうに思って、贅沢なわがままなのなのかもしれないですけども。

→【村長】

あの、檜原ほんとにね、谷が深いんで、そういうところが沢山あるんで、手をつけられないとか結構いっぱいありますので、あのまあ御理解をいただきたいと思います。

■まあ、今のことは、5%の負担なくすとかね、お金どんどん使えば良いと思うんですよ。まあ、あのそれで最後ですけども、去年ね、この対話集会をやって、それで「広報ひのはらでこういう意見が出ました。」という一覧が載ってました。でもね、私それ見てですね、こういう意見が出たって、それで村はどうすんだろうということが何にも書いてないんですよ。ですから、可能な限りですね、村民の人々から出た意見については、これは短期でできるものは例えば◎(二重丸)だとか、それで中期でやらなきゃならないものは△(三角)、これはかなり長期ですよっていうものは×(バツ)とかね、あるいはできないよとかいうものを何らかの形でマークをしてですね、村民の人が、「あ、こういう意見が出たものについては、村は即やってくれるんだな。」とか、「あれはちょっと時間かかるんだな。」と。で、ここに来ている人は本当に少ないですよ、小沢の人たち、少し寒いせいもあるしね。だから、来てない人だって分かるような表示をその対話集会の結果としてですね、まとめて広報してほしいなど。これは、まあ、検討していただきたいということです。 以上です。

→【村長】

せっかく皆さんが意見を出していただいて、広報にまとめてお知らせをしてますけども、その後のことが載ってないってことで、これについては村の方でも、これはきちっとした形でやらないといけないと思いますので、これについては今日を教訓にですね、対応させていただきます。

はい、実はですね、2月号の広報にですね、まだご覧になってないと思いますけども、あの、この中では皆さんから要望を、村民対話集会における皆様からのご意見を反映した内容をお知らせしますってことで、金額いくらとかそんなのは書いてないんですけども、こういうふうなことを対応しましたというのは書いてあるんですね。もうちょっと、細かく書いた方

が良いのかなと思ってますので、そんな形で対応させていただきます。

【司会】

本日はですね、皆様から多くのご質問ご意見、本当にありがとうございました。  
最後にですね、吉本村長からお礼の挨拶を持って終了とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします

【村長】

本日はお忙しいところ、対話集会にご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。  
皆様からいただいたご要望やご意見は村政運営に反映させていただく予定でございます。  
これからも、開かれた新しい檜原村を作るためにですね、頑張っまいりますので、皆様にもよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。